

科目	呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連				
特定行為	気管カニューレの交換				
時間数	9	講義7 OSCE1 試験1 実習			
概要	長期呼吸療法の必要性や特徴を理解し、安全に管理するために気管切開に関連した基礎知識を学ぶ。 医師の指示の下、手順書により身体所見（バイタルサインや皮膚所見等）及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、気管カニューレ交換ができるようになるための知識と判断過程、技術を学ぶ。				
目標	1. 呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連に含まれる特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける 2. 医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「気管カニューレの交換」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる 3. 手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う				
研修方法	講義（放送授業）：eラーニングの受講 演習（面接授業）：ペーパーシミュレーションによるディスカッション・レポート提出 試験（筆記試験）：科目修了試験の実施（教室に集合しPC端末もしくは試験用紙を用いて行う）				
講師	別紙「指導者一覧」参照				
	学ぶべき事項	内容	方法	時間	
	1	気管切開に関する局所解剖	講義	0.5	
	2	気管切開を要する主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント	講義	0.5	
	3	（共通）呼吸器 （長期呼吸療法 に係るもの）関連 の基礎知識	気管切開の目的、適応と近畿	講義	0.5
	4		気管切開に伴うリスク	講義	0.5
	5		小児の気管切開	講義	0.5
	6		気管切開の方法、機器、カニューレの種類	講義	0.5
	7		気管切開患者の管理・ケア	講義	0.5
	8		気管カニューレの適応と禁忌	講義	0.5
	9		気管カニューレの構造と選択	講義	0.5
	10	気管カニューレの交換の手技	講義	0.5	
	11	気管カニューレの交換の困難例の種類とその対応	講義	1	
	12	気管カニューレの交換の手技（一部ペーパーシミュレーション・アセスメント・判断を取り入れた手技を含む（面接授業））	講義	1	
	13	気管カニューレの交換	OSCE	1	
	14	科目修了試験	試験	1	
	15	実習	気管カニューレの交換 5症例		
評価	講義	全講義受講・確認テスト100%			
	試験	90%以上			
	OSCE	総合点4以上			
	実習	各症例60%以上：評価表とレポート			

科目名	栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連			
特定行為	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入			
時間数	9	講義7 OSCE1 試験1 実習		
概要	末梢留置型中心静脈注射の必要性や特徴を理解し、安全に管理するために必要な基礎知識を学ぶ。 医師の指示の下、手順書により身体所見（バイタルサインや皮膚所見等）及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、末梢留置型中心静脈注射用カテーテル挿入ができるようになるための知識と判断過程、技術を学ぶ。			
目標	1. 栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連の特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける			
	2. 医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「末梢留置型中心静脈注射用カテーテル（PICC）」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる			
	3. 手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う			
	5. 実施、報告の一連の流れが適切に行える			
研修方法	講義（放送授業）：eラーニングの受講 演習（面接授業）：ペーパーシミュレーションによるディスカッション・レポート提出 試験（筆記試験）：科目修了試験の実施（教室に集合しPC端末もしくは試験用紙を用いて行う）			
講師	別紙「指導者一覧」参照			
学ぶべき事項		内容	方法	時間
1	（共通）末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理の基礎知識	PICCの総論と局所解剖	講義	0.5
2		PICCを要する主要疾患の病態生理	講義	0.5
3		PICCを要する主要疾患のフィジカルアセスメント	講義	0.5
4		PICCの目的、適応、禁忌	講義	0.5
5		PICCに伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義	0.5
6		PICCの挿入の適応と禁忌	講義	0.75
7		PICCの挿入に伴うリスク	講義	0.5
8		PICCの挿入の方法と手技	講義	0.75
9		PICCの挿入のトラブル対応	講義	0.5
10		PICCの挿入に関する患者説明、医師への報告	講義	0.5
11		PICCの挿入の前後の管理、在宅での管理	講義	0.5
12		PICCの挿入の方法と手技（一部ペーパーシミュレーション・アセスメント・判断を取り入れた手技を含む（面接授業））	講義	1
13		末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	OSCE	1
14	科目修了試験		試験	1
15	実習	末梢留置型中心静脈注射用カテーテル挿入 5症例		
評価	講義	全講義受講・確認テスト100%		
	試験	90%以上		
	OSCE	総合点4以上		
	実習	各症例60%以上：評価表とレポート		

科目	ろう孔管理関連			
特定行為	(A) 胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換			
	(B) 膀胱ろうカテーテルの交換			
時間数	24	講義20	OSCE2	試験2 実習
概要	瘻孔管理の必要性や特徴を理解し、安全に管理するために必要な基礎知識を学ぶ。 医師の指示の下、手順書により身体所見（バイタルサインや皮膚所見等）及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル、胃ろうボタン交換、膀胱ろうカテーテル交換ができるようになるための知識と判断過程、技術を学ぶ。			
目標	1. ろう孔管理関連の特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける 2. 医師の指示の下、手順書により、身体所見等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる 3. 医師の指示の下、手順書により、身体所見等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「膀胱ろうカテーテルの交換」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる 4. 手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う			
研修方法	講義（放送授業）：eラーニングの受講 演習（面接授業）：ペーパーシミュレーションによるディスカッション・レポート提出 試験（筆記試験）：科目修了試験の実施（教室に集合しPC端末もしくは試験用紙を用いて行う）			
講師	別紙「指導者一覧」参照			
学ぶべき事項	内容	方法	時間	
1	胃ろう、腸ろう、膀胱ろうに関する局所解剖と生理	講義	1	
2	胃ろう、腸ろうを要する主要疾患の病態生理とフィジカルアセスメント	講義	1	
3	胃ろう、腸ろうのカテーテル留置と患者のQOL	講義	1	
4	胃ろう、腸ろう患者の管理	講義	1	
5	胃ろう、腸ろうのカテーテル留置に必要なスキンケア	講義	1	
6	膀胱ろうを要する主要疾患の病態生理とフィジカルアセスメント	講義	0.5	
7	膀胱ろうのカテーテル留置と患者のQOL	講義	0.5	
8	膀胱ろう患者の管理～カテーテル管理とフォローアップ～	講義	1	
9	膀胱ろう管理で起こりうるトラブルとその対応	講義	1	
10	在宅環境におけるろう孔管理	講義	1	
11	胃ろう及び腸ろうの目的、適応、禁忌	講義	0.5	
12	栄養に関する評価	講義	0.5	
13	胃ろう造設の意思決定ガイドラインおよび胃ろう造設術	講義	0.5	
14	胃ろう造設術後管理と胃ろうに伴うリスク	講義	0.5	
15	胃ろうカテーテル及び胃ろうボタンの種類と交換	講義	0.5	
16	腸ろう造設術と腸ろうに伴うリスク	講義	0.5	
17	腸ろうカテーテルの種類と交換	講義	0.5	
18	胃ろうおよび腸ろうの地域連携	講義	0.5	
19	胃ろう・腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンの交換（一部ペーパーシミュレーション・アセスメント・判断を取り入れた手技を含む（面接授業））	講義	1.5	
20	胃ろう・腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンの交換	OSCE	1	
21	膀胱ろうの目的、適応、禁忌	講義	1	
22	膀胱ろうに伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義	0.75	
23	膀胱ろう造設術および意思決定・患者説明	講義	1	
24	(B) 膀胱ろうカテーテルの種類と交換	講義	0.75	

25	カテーテルの交換	膀胱ろうの在宅医療と地域連携	講義	0.5	
26		膀胱ろうカテーテルの交換（一部ペーパーシミュレーション・アセスメント・判断を取り入れた手技を含む（面接授業））	講義	1.5	
27		膀胱ろうカテーテルの交換	OSCE	1	
28	科目修了試験			試験	2
29	実習	(A) 胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換5症例			
		(B) 膀胱ろうカテーテルの交換5症例			
評価	講義	全講義受講・確認テスト100%			
	試験	90%以上			
	OSCE	総合点4以上			
	実習	各症例60%以上：評価表とレポート			

科目	創傷管理関連			
特定行為	(A) 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去			
	(B) 創傷に対する陰圧閉鎖療法			
時間数	35	講義31 OSCE1 試験3 実習		
概要	創傷管理の必要性や特徴を理解し、安全に管理するために必要な基礎知識を学ぶ。 医師の指示の下、手順書により身体所見（バイタルサインや皮膚所見等）及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去、創傷に対する陰圧閉鎖療法ができるようになるための知識と判断過程、技術を学ぶ。			
目標	1. 創傷に関連した局所解剖・病態生理を理解し、フィジカルアセスメントができる。			
	2. 手順書案を作成し、再評価、修正できる			
	3. 医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、実施の可否を判断できる			
	4. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去、創傷に対する陰圧閉鎖療法ができる			
	5. 実施、報告の一連の流れが適切に行える			
研修方法	講義（放送授業）：eラーニングの受講 演習（面接授業）：ペーパーシミュレーションによるディスカッション・レポート提出 試験（筆記試験）：科目修了試験の実施（教室に集合しPC端末もしくは試験用紙を用いて行う）			
講師	別紙「指導者一覧」参照			
	学ぶべき事項	内容	方法	時間
1	(共通) 創傷管理関連の基礎知識	皮膚、皮下組織（骨を含む）に関する局所解剖	講義	0.5
2		主要な基礎疾患の管理	講義	1
3		慢性創傷の種類と病態、全身のフィジカルアセスメント	講義	0.75
4		褥瘡及び感染の分類、アセスメント・評価	講義	0.5
5		局所のフィジカルアセスメント、治癒のアセスメントとモニタリング（創傷治癒過程、TIME理論等）	講義	0.75
6		リスクアセスメント	講義	0.75
7		褥瘡及び創傷治癒と栄養管理	講義	1
8		褥瘡及び創傷治癒と体圧分散	講義	0.75
9		褥瘡及び創傷治癒と排泄管理	講義	0.75
10		DESIGN-Rに基づいた治療指針	講義	0.75
11		褥瘡及び創傷の診療のアルゴリズム、褥瘡の治癒のステージ別局所療法	講義	1
12		下肢創傷のアセスメントと病態別治療	講義	1.5
13		創部哆開創のアセスメントと治療	講義	1
14	(A)褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の目的	講義	1
15		褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の適応と禁忌	講義	1
16		褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義	1.5
17		DESIGN-Rに準拠した壊死組織の除去の判断	講義	1
18		全身と創傷のアセスメント	講義	1
19		全身状態の評価と除去の適性判断（タンパク量、感染リスク等）	講義	1.5
20		壊死組織と健常組織の境界判断	講義	0.5
21		創傷被覆材の保険適用と創傷被覆材の種類	講義	0.5
22		創傷被覆材について	講義	0.5
23		軟膏について	講義	0.5

24		褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法	講義	1
25		褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴う出血の止血方法	講義	1
26		褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法（一部ペーパーシミュレーション・アセスメント・判断を取り入れた手技を含む（面接授業））	講義	1
27		褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴う出血の止血方法（一部ペーパーシミュレーション・アセスメント・判断を取り入れた手技を含む（面接授業））	講義	1
28		褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	OSCE	1
29	(B) 創傷に対する陰圧閉鎖療法	創傷に対する陰圧閉鎖療法の種類と目的	講義	1
30		創傷に対する陰圧閉鎖療法の適応と禁忌、リスク（有害事象とその対策等）	講義	1
31		感染創の管理	講義	1
32		物理的療法の原理	講義	0.75
33		創傷に対する陰圧閉鎖療法の方法	講義	0.5
34		創傷に対する陰圧閉鎖療法に伴う出血の止血方法	講義	0.75
35		外来における創傷管理	講義	1
36		創傷に対する陰圧閉鎖療法の方法（一部ペーパーシミュレーション・アセスメント・判断を取り入れた手技を含む（面接授業））	講義	1
37	科目修了試験		試験	3
38	実習	(A) 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去5症例 (B) 創傷に対する陰圧閉鎖療法5症例		
評価	講義	全講義受講・確認テスト100%		
	試験	90%以上		
	OSCE	総合点4以上		
	実習	各症例60%以上：評価表とレポート		